

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「明朗・敬虔・奉仕」のもと地域と双方向的につながりを持ち、グローバル化する社会の中で、主体的に国際社会・地域社会に貢献できる人物を育成する。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組みの推進。
（1）ICT 端末や電子黒板等を有効活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
（2）グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
（3）生徒の進路実現を支援するための進路講演会及び保護者説明会を充実するなど、生徒一人ひとりが個々に応じた進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導をおこなう。
（4）「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。
（5）「総合的な探究の時間」による3年間を通した系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
（6）新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。
（7）図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。
（8）専門コース制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和9年度には25名合格を目標とする。（R4 16名、R5 20名 R6 8名）
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（R4 80.2% R5 82.0% R6 80.4%）を向上させ、令和9年度には85%とする。
2. 人間力をつけること、規律、安全安心について
（1）道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に基本的な生活習慣の確立を図る。規則を守る力、礼儀を身に付ける。
（2）教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。
（3）人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。
（4）体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定的評価（R4 80.1% R5 82.2% R6 84.5%）を向上させ、令和9年度には85%とする。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
（1）OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の機関との連携と支援を生かした取組みを展開する。
（2）平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「防災教育」の取組みを推進する。
（3）広報活動を積極的に行う。Web Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。本校独自の映像制作・編集スペースである「SAKURABO」を活用した映像制作等により、学校広報はもとより地域の活性化にも寄与する。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（R4 63.0% R5 58.3% R6 68.0%）を増やし、令和9年度には、70%とする。
4. グローバルリーダーの育成
（1）国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
（2）国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
※ 国際交流活動等に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（R4 70.0% R5 69.2% R6 79.4%）を増やし、令和9年度には、85%とする。
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
（1）全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
（2）教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。
（3）運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
（4）分掌に位置付けられない組織「SPT（Sakura Project Team）」の取組みを推進する。
（5）「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
（6）働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	1. 確かな学力の育成と授業改善。	新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。	(1)生徒向け学校教育自己診断「タブレットを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率95%維持。[97.6%] 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等の ICT 機器が授業などで活用されている」肯定率100%を維持[100.0%]	
	2. (1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。	(1) タブレットを活用した授業形態に取組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。	(2)12 月段階の英検 2 級以上 130 名合格、準 2 級 210 名合格。[2 級以上 123 名、準 2 級 203 名]	
	(2) 英語の 4 技能を高める。	(2)英語の授業における指導や放課後を活用し外部教育産業と連携した「桜塾」を通して、英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。	(3) 生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率 85%維持[89.9%]	
	(3) 生徒の進路実現を支援するため、きめ細かい進路指導をおこなう。	(3)進路講演会、保護者説明会を充実させる。進路ホームルームを活用し、多様な生徒個々の第 1 希望進路の実現に向け、きめ細かい進路指導をおこなう。	(4)生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」肯定率 85%維持[88.1%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率 90%維持。[90.9%]	
	(4)「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。	(4) ICT 機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10 年経験者研修受講者及びアドバンストセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。	(5)生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率 90%維持。[92.9%]	
	(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。	(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。	(6)生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率 90%維持 [93.3%]	
	(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める	(6) 観点別評価が導入されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。	(7)図書室の利用者数 3,000 名以上維持[3,724 名]	
	(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。	(7)パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。	(8)国公立大学への合格者 20 名以上[8 名]	
	(8) 専門コース制を軸に、学力アップを図り、国公立大学や難関大学への合格者を増やす。	(8) 専門コースを生かし、学力の更なる効果的な向上を図るとともに、第 1 希望の進路実現に向けて粘り強く努力をする生徒を育成する。		

府立桜塚高等学校

2 人間力をつける、規律、安全安心について	2. 人間力をつける (1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について (2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。 (3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。 (4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身に着けるための取組みを組織的にこなう。 (2) 「生徒一人ひとりを大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。 (3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別、SNSによる人権侵害、同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。 (4) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。	(1) 生徒向け学校教育自己診断 「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 83 % 維持。[84.5 %] 「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80 % 維持。[86.7 %] (2) 生徒向け学校教育自己診断 「担任の先生以外に相談できる先生がいる」肯定率 70 % 維持。[71.7 %] (3) 生徒向け学校教育自己診断 「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85 % 維持。[92.2 %] (4) 教職員向け学校教育自己診断 「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90 % 維持。[92.6 %]	
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	3. 地域の信頼される学校を促進・広報する (1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の継承。「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。 (3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。	(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。 (2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。 (3) Web Page の画面を見やすくする。さらに今年度新たに設置した映像制作・編集スペース「SAKURABO」を活用し、学校の元気な様子を映像で内外に発信する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率 65 % 維持[68.0 %] (2) 訪問やオンラインによる年 2 回以上の相互交流を実施。[2 回] (3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90 % 維持[94.4 %]	
4. グローバルリーダーの育成	4. グローバルリーダー育成 (1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。 (2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。	(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。 (2) 2 年次、3 年次に GS (グローバルスタディー) コースを設置し、より高いレベルの学習にチャレンジできる環境を整える。国公立や難関私学など第 1 志望の進路実現をめざすとともに、将来国際社会で活躍するグローバル人材の育成を図る。	(1) 生徒向け学校教育自己診断 「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある」肯定率 75 % 以上。[79.4 %] (2) GS (グローバルスタディー) コース生徒の全国大学共通テスト (英語) の全国平均以上	

府立桜塚高等学校

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化 (1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。 (2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。 (3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクシヨナリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。 (4) 分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進させる。 (5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。 (6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。	(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。 (2) 学習指導要領改訂に伴う教授法や評価法等の改革に対応するため、教科ごとの組織力を高める。さらに、全教職員が教科の枠を超えた広い視野で本校の教育力の向上を図る。 (3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。 (4) 首席を軸に SPT の取組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。 (5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。 (6) 部活動方針に基づく適切な休養日の設定を徹底するとともに、部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化などの取組みにより、時間外勤務削減をはかる。	(1) 教職員向け学校教育自己診断 「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率 80%維持。[89.1%] (2) 教職員向け学校教育自己診断 「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率 80%維持。[85.4%] (3) 教職員向け学校教育自己診断 「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率 70%維持。[70.9%] (4) 教職員向け学校教育自己診断 「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率 80%以上。[69.1%] (5) 教員向け学校教育自己診断 「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率 75%以上。[70.9%] (6) 月平均残業時間 80 時間以上の教員をなくす。[0名] ストレスチェックの全校平均値 100 以下を維持。[95]	
----------------------------	--	--	--	--